

二〇一三年九月一五日

豊頬の觀音像に萩の風  
踏み入ればおんぶ飛蝗の放物線  
六地蔵います野菊の籬かな  
行厨は楠のしもとの秋日影

二〇一三年九月一四日

石畳履きゐる風のしだれ萩  
犬の鼻蹴つててんに跳ぶ蝗  
弓なりの竿や鱸の鰓洗  
雲うつる仏足石の秋の水

秋暑し訪ねし店は休業日  
爽やかに振りほどきたる束ね髪  
鉄瓶に秋草生けて画家の家  
手びさしに信号待ちす西日かな

二〇一三年九月一二日

パノラマに見ゆ秋航の水平線  
秋の渓瀬がしら白く迸り  
萩叢を籬としたる楠大樹  
熊よけの鈴を鳴らしつ茸狩  
觀音の片頬濃ゆき秋日影

千鶴 明日香

満 む かえり  
みきえ

あひる

あひる  
せつ子  
智恵子  
たか子

二〇一三年九月一日

断捨離に一日費やす秋の暮  
祝砲の峰々に仰す秋祭  
産まれくる子牛にと敷く今年藁  
一一〇二三年九月一〇日

狛犬のだんごつ鼻に露の玉  
秋澄むやスワンボートの散らばりて  
古襖の唐紙がはじく秋の翳  
一一〇一三年九月九日

ほんのりと染む尼寺の醉芙蓉  
ぽん菓子屋爆せて祭火搖れにけり

なつ はく もと せいじ 明日香

はく子

毎日句会みのる選・二〇一三年九月一七日